

村松農場



松涛

No.39

2022. 3. 10

主な記事

同窓会長挨拶	2
学部長挨拶	3
常任幹事会報告	4
今年度の活動計画	4
同窓会会計報告	5
支部だより	6
職場紹介	
新潟市農業活性化	
ペンリレー	9
トピックス	10
国際交流	14
学部だより	15
嵐丘庭の草刈り	16
農学部の動向	17
特集 進藤前会長を偲んで	17

同窓会長挨拶

同窓会長 渡 辺 仁 (昭52農工)



が変更または中止を余儀なくされ、学生生活も様々な制約があると聞いております。

昨年、一昨年に続きコロナウィルスに翻弄された一年でした。そんな中、延期されていたオリンピック・パラリンピックも様々な意見がある中で、関係者のご努力により何とか開催でき、皆さんも久々に日本人選手の活躍に心躍らせたのではないのでしょうか。

10月1日には緊急事態宣言が解除され、その後は驚くほどの速さで新規感染者数が少なくなり、年末には終息が見通せるかとも思われていました。しかし、世界的に新たな変異株（オミクロン）が流行し始め、日本国内でも確認が相次いでいます。昨年の第5波のような急拡大が起らないことを願うばかりです。

全国の大学では、今でも様々な行事

新潟大学も例外ではなく、R2年度の卒業式は開催出来たものの、式典は無く、事前収録した学長告辞や卒業生代表答辞などをインターネットで各学部の講義室に配信し、プログラムごとに学位記の授与を受けるという変則的なものだったとお聞きしました。

また、R3年度入学式は中止となり、学部ごとにガイダンスが行われただけで、例年行われていた保護者懇談会もZoom配信となりました。唯一保護者の皆さんに直接同窓会への加入をお願いする機会を失ったことはとても残念でした。そのためだけではないのですが、年々入会率が低下し、昨年は60%そこそこのことでした。このまましていくと、今後の同窓会運営にも影響が出てくるのではないかと懸念される状況です。

昨年は同窓会関連での訃報が相次ぎ

ました。私の前任者である進藤隆さんが4月に他界されました。H20年に同窓会長に就任され、H28年の改選まで2期8年に渡り同窓会活動の活性化にご尽力いただきました。その間、新潟県支部の設立や同窓会創立60周年記念事業の開催など先頭に立つてご奮闘頂いた姿が思い出されます。この紙面をお借りして改めてご冥福をお祈り申し上げます。

更に、5月には前全学同窓会長の野本憲雄さん（理学部卒）が逝去されました。その他農学部同窓会事務局に連絡があっただけでも40名を超える方がお亡くなりになられたと聞き、時の流れの速さを痛感しております。

それでも、同窓会活動は少しずつ従来の姿を取り戻してきました。

全学同窓会では、昨年中止だった全学同窓会交流会講演会（担当…人文・法・経済学部同窓会）が録画配信の形で開催されました。残念ながら対面形式での講演会や懇親会は実施出来ませんでした。新しい形式での開催にも拘わらず、150人を超える方が視聴されたとのこと、安堵しているところです。

今年は、当学部が当番とのことで、対面形式での開催を前提に講師の選定やその他企画の検討を始めたところで

す。コロナが収束し、皆さんと元気にお会いできることを心から願っております。是非、多数のご参加をお願いします。

その他、基金で支援を受けている学生との交流を目的とした新潟大学サポーター倶楽部の報告会・情報交換会もZoomミーティング形式で開催出来ました。しかし、大学との懇談会・交流会などは残念ながら昨年中止となりました。

農学部同窓会も、5月29日（土）に常任幹事会を開催し25名の幹事から出席頂き、前年度の事業・会計報告、今年度の事業計画等を審議して頂きました。コロナ感染リスクを避けるため、各県支部長の参加はご遠慮いただいたため、支部活動資金については別途送金させて頂きましたし、懇親会も中止となりました。

また、環境整備として実施してきた嵐丘庭の草刈りについては、6月26日（土）及び10月16日（土）に開催しました。コロナ感染防止に配慮して在校生の参加は求めませんでしたが、大学の教員、職員とその家族、県職員やOBを中心とした同窓会有志が合わせて30人ほど参加していただき、心地よい汗をかきました。残念ながら作業終了後の懇談会は今年も取りやめ、来年に

期待することとなりました。

そのほか、農学部図書室への図書
の寄贈も例年通りに実施できました。
様々な制約がある中でしたが、少しず
つ活動が復活出来てホッとしていると
ころです。

コロナ禍にあつて、リモートワーク
が増加し、ワーケーションといった仕
事形態も増え、若者の田園回帰も進ん
できていると聞きます。また、国では
環境に配慮した「みどり食料システム
戦略」の具現化やスマート農業の普及
を図るとしており、益々農学系への期
待が高まるように感じています。

今年こそはコロナが終息し、様々な
同窓会活動をととして農学部の皆さん
の後押しが出来ることを切に願ってい
ます。

引き続き会員各位のご理解とご支援
をお願い申し上げますと共に、令和5年
度に予定されている創立70周年記念事
業を含めた同窓会活動に対する皆様か
らのご意見・ご要望等もお待ちしてい
ります。

最後に、皆様の益々のご健勝とご発
展を祈念申し上げます。年頭のご挨拶とさ
せていただきます。本年も宜しくお願
い申し上げます。

学部長挨拶

農学部長 中 田 誠



農学部同窓会の皆さまには、農学部
の活動に毎年多くのご支援を賜り、農
学部教職員を代表して御礼申し上げます。

世界的な新型コロナウイルス・パンデミック
に入り、二年が経過しようとしていま
す。冒頭の渡辺同窓会長の挨拶にもあ
りましたが、前年度に引き続いて様々
な行事が中止になり、実施されたもの
も簡略化やオンライン配信など、さま
ざまな制約がありました。コロナ禍で
大学生となった令和二年度入学生は非
対面型の授業が続きましたが、昨年十
月にプログラム分属になり、実験・実
習等を通じて、ようやく対面型の授業
に出席できるようになりました。令和
三年度は、講義科目については非対面
型（オンライン等）での実施を基本と

しつつも、教育効果を考慮し、対面授
業が必要な場合は申請により、学部長
判断で対面実施ができるようになりました。
一方、実験・実習、インターン
シップや、卒業論文（ゼミを含む）に
ついては対面型を基本とし、状況に応
じて非対面型や、対面型と非対面型を
併用しての実施が可能になりました。
それでも感染防止対策を徹底すること
が前提であり、学生、教員ともに不便
な環境での授業実施を余儀なくされま
した。それでも教職員の努力により、
限られた時間と資源を最大限に活用で
きるように工夫しながら授業を行って
きました。また、前年度の反省から、
初年次教育に係る科目は、できる限り
対面型を取り入れるように努力しまし
た。その甲斐があり、授業や研究室活
動における新型コロナウイルス感染者数は、新
潟大学全体として最少レベルに抑えら
れてきたと思います。

さて、日本の国立大学は平成十六年
四月に国立大学法人へと移行し、今年
度で十八年目になります。国立大学法

人は、中期目標・中期計画という六年
間を区切りとする大きな枠組みの中
で、教育・研究・社会貢献等におい
て、各大学の質的向上を目指してきま
した。ここで、中期目標とは国立大学
法人が六年間において達成すべき業務
運営に関する目標であり、中期計画と
は国立大学法人が中期目標を達成する
ために作成した六年間の計画のこと
で、文部科学大臣の認可を受けること
になっています。何やら難しい行政用
語が並びましたが、要は今年度で第三
期中期目標・中期計画期間が終了し、
来年度（令和四年度）からは新しい中
期目標・中期計画期間が始まります。
これから六年間の新潟大学の道標とな
る中期目標選定と中期計画策定のため
に、学長はじめ大学執行部のリーダー
シップのもと、各部署等が協力して検
討を行ってきました。現在、第四期中
期目標・中期計画の原案を文部科学省
へ提出中ですが、それに先駆けて「新
潟大学将来ビジョン2030」が策定
されました。そこでは、SDGs（持
続可能な開発目標）の達成期限である
2030年を直近の未来と見据え、そ
の未来社会に向けて新潟大学が果たす
べきミッション（使命）を、「未来の
ライフ・イノベーションのフロントラ
ンナーとなる」とことと定め、教育・学

生支援、研究、大学病院、産学・地域連携、国際連携、経営・組織改革の六つのビジョンから目標と具体策の例が示されています。

新潟県は広大な面積を有し、農業が基幹産業の一つとなっています。応用科学としての農学には、地域の課題解決と活性化、農林業の生産性向上、雇用の創出といった、多くの役割を果たすことが期待されています。そのためには、大学と自治体・産業界との連携、ロボット・AI等の先端技術を活用したスマート農業の推進による農作業の省力・軽労化、高品質生産の実現が重要となります。また、バイオテクノロジーを活用した農林業作物の品種改良や、新しい生物機能の開発と利活用など、気候変動が急速に進む中で、その抑制や適応策を考える役割も農学は

担っています。さらに、頻発する自然災害に対する防災・減災に関わる研究推進や地域貢献も求められています。農学部は、新潟大学の他学部や、全学共同教育研究組織である日本酒学センター、佐渡自然共生科学センター、アジア連携研究センター、全学附置研究所である災害・復興科学研究所と連携した研究を強く進めています。このような環境で学生・院生の教育を行うことにより、広い視野と高度な知識・技術をもった人材育成を可能としています。新潟大学農学部は、地域に根差しつつも広く世界を視野に入れ、人類の幸せな未来を実現するために、教育・研究・社会貢献に一層の努力を続けて参ります。農学部同窓会の皆さまには、今後も変わらぬご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

新潟大学農学部常任幹事会 が開催されました

昨年度コロナ禍のため中止となった常任幹事会が、令和3年5月29日(土)アートホテル新潟駅前において、開催されました。コロナ禍の影響により、県外の各支部長の招聘は見送り、また懇親会も中止となり、出席者には軽食等をテイクアウト用に用意させていただきました。

常任幹事会は渡辺会長をはじめ24名の常任幹事で行われ、会長挨拶に続き、執行部から活動報告、活動計画、会計決算報告、会計予算案が提案され、承認されました。

引き続いて、杉山稔恵幹事長から学部の動向などの説明がありました。

最後に、今年度同窓会事務局を退職される家後事務局員に対し、渡辺会長より記念品料の贈呈が行われました。

2021年度活動計画

幹事長 杉 山 稔 恵
(平1畜産)

本年度も新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない状況が続くと思われませんが、収束の期待の下、農学部「学術・文化活動への支援」と在学生への学ぶ環境の整備として「農学部図書室への支援」、農学部学生の「就業力育成事業への支援」等を中心に、例年どおりの事業を企画し、可能な事項から実施していく。

1. 「松濤」39号の発行

同窓生からの投稿を促し、また、農学部「今」をお知らせできる会誌を目指します。

2. 『風丘庭』の維持・管理をとおしての有効活用を図ります

農学部の顔である「風丘庭」の維持・管理をとおしての交流事業等を行う、農学部同窓会活動の活性化のため積極的な声掛けを行います。

3. 学部内諸行事への支援

「卒業祝賀会」開催への支援を行います(卒業生出席無料)。

4. 学術・文化活動への支援

農学部が行う国際交流事業、および

農学部フォーラム K A A Bフォーラム等の学術・文化活動を支援します。

5. 受験者増加への取組みに対する支援(農学部の魅力PR)

農学部を理解してもらうための「高等学校への訪問」及び「高等学校教員の招聘(アドミッションフォーラム)事業」への支援を行います。

6. 農学部在学生のための農学部図書室の充実支援

在学生への具体的な支援の取組として、農学部図書室の充実支援を行います。

7. 農学部学生の就業力育成に係る支援

農学部学生の就業力育成にあたり、卒業生による指導、助言のための講演、研修会などの支援を行います。

8. 全学同窓会活動の運営及び各種行事への参加協力

渡辺会長…全学同窓会副会長・理事、杉山幹事長、佐藤在校幹事…運営委員会委員

2020年度新潟大学農学部同窓会 事業費決算報告 (令和2年5月1日～令和3年4月30日)

1. 収入の部 (円)

科 目	予 算	決 算	増 減	備 考
基金収入からの繰入	3,300,000	3,300,000	0	
前年度繰越	1,385,345	1,385,345	0	
利子・雑収入	26	27	1	利息 27 円
合計	4,685,371	4,685,372	1	

2. 支出の部

科 目	予 算	決 算	増 減	備 考
1. 事務局費	700,000	570,877	▲ 129,123	全学同窓会交流会・役員会出席補助、支部総会出張旅費等 中止、通信費、電話料、謝金、消耗品費等
2. 会議費	100,000	36,712	▲ 63,288	常任幹事会支部役員出席旅費 常任幹事会会場使用料等 中止
3. 名簿情報維持管理費	75,000	74,520	▲ 480	名簿データベースメンテナンス
4. 卒業祝賀会費	700,000	0	▲ 700,000	新型コロナウイルス感染の拡大による 中止
5. 退職者記念品費	45,000	42,669	▲ 2,331	退職者3名(教員)
6. 嵐丘庭維持費	100,000	58,034	▲ 41,966	中庭草刈り2回(同窓生・教職員との交流)
7. 「松涛」発行費	1,350,000	1,292,072	▲ 57,928	「松涛 38 号」「しおり」印刷、郵送等
8. 慶弔費	50,000	10,000	▲ 40,000	香典(前会長 進藤 隆 氏)
9. 支部活動助成費	350,000	353,960	3,960	8支部(6支部35,000円、新潟県・首都圏支部各70,000円)振込送金
10. 学文活動助成費	250,000	100,000	▲ 150,000	「コシヒカリ新潟大学NU1号」主任研究者 K A A Bセンター長三ツ井敬明教授
11. 全学同窓会負担金費	435,000	435,765	765	令和2年度入学定員による比率(%)8.1131
12. ホームページ費	50,000	5,000	▲ 45,000	松涛、記事等掲載
13. 志願者確保対策助成費(高校訪問旅費助成費)	170,000	0	▲ 170,000	教員による高校訪問 アドミッションフォーラム等 中止
14. 農学部図書室充実費	100,000	99,755	▲ 245	農学部学生による希望図書の購入補助
15. 学生の就業力育成に係る助成費	50,000	0	▲ 50,000	農学部学生の就業力育成のため 指導、助言の旅費等 中止
16. 予備費	160,371	0	▲ 160,371	
合計	4,685,371	3,079,364	▲ 1,606,007	

3. 差引残高 (A - B) 1,606,008 円 次年度への繰越金

2021年度新潟大学農学部同窓会 事業会計予算 (令和3年5月1日～令和4年4月30日)

1. 収入の部 (円)

科目	本年度予算	前年度決算	増減	備考
基金収入からの繰入	3,100,000	3,300,000	▲ 200,000	
前年度繰越	1,606,008	1,385,345	220,663	
利子・雑収入	27	27	0	
合計	4,706,035	4,685,372	20,663	

2. 支出の部

科目	本年度予算	前年度決算	増減	備考
1. 事務局費	700,000	570,877	129,123	全学同窓会交流会・役員会出席補助、通信費、電話料、各支部への出張旅費、謝金、消耗品費等
2. 会議費	200,000	36,712	163,288	常任幹事会開催関係経費等
3. 名簿情報維持管理費	75,000	74,520	480	名簿情報メンテナンス等経費
4. 卒業祝賀会費	700,000	0	700,000	卒業祝賀会費補助
5. 退職者記念品費	0	42,669	▲ 42,669	退職者教員0名
6. 嵐丘庭維持費	100,000	58,034	41,966	除草等
7. 「松涛」発行費	1,350,000	1,292,072	57,928	「松涛 39 号」「しおり」印刷、発送等
8. 慶弔費	50,000	10,000	40,000	弔電、生花代等
9. 支部活動助成費	353,960	353,960	0	支部活動助成(6支部@35,000 首都圏、新潟県@70,000) 振込手数料
10. 学文活動助成費	250,000	100,000	150,000	3大学合同研修会、F C シンポ、新大 G P、農学部フォーラム等
11. 全学同窓会負担金費	434,830	435,765	▲ 935	令和3年度入学定員による比率(%)8.0944
12. ホームページ費	50,000	5,000	45,000	H P メンテナンス等経費
13. 志願者確保対策助成費(出前講義旅費助成費)	170,000	0	170,000	高校訪問、アドミッションフォーラム等
14. 農学部図書室充実助成費	100,000	99,755	245	農学部学生用図書及び閲覧スペースの充実
15. 学生の就業力育成に係る助成費	50,000	0	50,000	農学部学生の就業力育成のため農学部卒業生による指導・助言
16. 予備費	122,245	0	122,245	
合計	4,706,035	3,079,364	1,626,671	

2020年度新潟大学農学部同窓会 基金会計報告 (令和2年5月1日～令和3年4月30日)

1. 収入の部 (円)

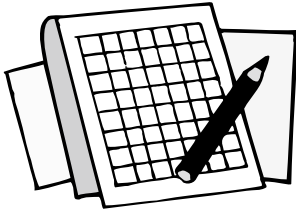
科 目	前年度	今年度	増 減
繰越金	26,526,574	24,981,749	▲ 1,544,825
基金収入(入会金)	4,203,416	4,054,636	▲ 148,780
利子	1,841	655	▲ 1,186
合 計	30,731,831	29,037,040	▲ 1,694,791

2. 支出の部 (円)

科 目	金 額	備 考
事業費繰入	3,300,000	
合 計	3,300,000	

3. 次年度への繰越金 (円)

科 目	金 額
収入合計	29,037,040
支出合計	3,300,000
繰 越 金	25,737,040



支部だより

◆新潟県支部

ワクチン接種が進んで、新型コロナウイルス感染者数もずいぶん減り、経済の回復にも薄日が差し始めたと思ったら、年が変わると、新たな変異株「オミクロン株」が全国で猛威を振り、今や「第6波」の渦中にあります（1月末時点）。それにしても新型コロナウイルスの次から次へと変異していく、「しぶとさ」にはため息が出ます。このような状況の中で1月に開催予定の新潟県支部総会は、昨年に続き中止させていただきました。今年こそはと楽しみにしていた会員の皆様にはご理解を賜りますようお願いいたします。結局、支部活動としては6月と10月に実施した嵐丘庭の草刈りへの参加だけになってしまいました。

「中止」といえば、県内を見渡しても、2日間で100万人以上を動員する「長岡大花火大会」は2年連続。例年3月に新潟市で2日間で10万人以上が来場する国内最大級の日本酒飲み比べイベント「にいがた酒の陣」が3年連続。私も毎年参加してきた「新潟シテイマラソン」も3年連続（2年前は台風の影響）で、多くの県外の皆様から本県に来ていただける大イベント

は、ことごとく中止によつて観光業をはじめ大きな影響が出ています。個人的には「酒の陣」は中止になつても毎晩、家飲みで鍛え、飲酒量は落ちませんが、マラソン大会の中止は気持ちの緩み、練習の走行距離が大きく落ち込むなどフルマラソンを完走する気力、体力はなくなつてしまいました。最近、変化し続ける新型コロナウイルスを迎え撃つ我々人間も、変化に対応できる「しぶとさ」が試されているような気がしてなりません。ウィズコロナの新しい時代、様々なアイデアや工夫を凝らしながら、楽しみ方やイベントのやり方を探していく必要もありますが、何より気持ちだけは負けないよう、周りの皆様と一緒に、このコロナ禍を乗り切っていきたいと思っています。

佐藤 一志（昭61農）

◆首都圏支部

首都圏支部会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

新型コロナウイルス感染症の終息も未だ見えない中、私たちの支部活動も閉店休業状態です。例年、5、6月に定時総会を開催し、皆様の近況や大学の現状を伺っていますが、残念ながら昨年もそのような機会を設けることが出来ませんでした。このような状況下、全学同総会事務局から配信されたメー



ルマガジンに首都圏支部の近況を添えて、支部会員のニュースレター（年6回）として配信していますので、是非ご覧ください。

昨年（令和2年）の総会は新型コロナウイルス蔓延の影響で開催出来ませんでした。福島の復興の現状（特に農業分野）について野内芳彦氏（農工、S56卒、元福島県職）に講演をお願いしておりました。その企画は叶えられませんでした。私が福島復興に関わる仕事で福島勤務になったので、現地の様子を少し紹介させて頂きます。（支部活動とは異なっておりますが、ご容赦下さい。）

昨年10月から、福島県富岡町の工事に転勤となり低レベル放射性廃棄物運搬の運行管理の業務に従事しています。福島第一原発から15kmほど離れています。住民はほとんど見られず、復興工事関係者の姿が目につきます。先日は帰宅困難区域の大熊町や双葉町も視察しましたが、10年を経過しても道路のいたるところに規制ゲートが設置されており、住民の帰宅への道のりは長いと実感したところです。写真は、

◆富山県支部

特定廃棄物の埋立処分場の全景ですが、約1tの袋に詰めた廃棄物を毎日500袋程運び入れ、この先3年程度はかかる見込みです。このほかに高レベル放射性廃棄物を扱う中間貯蔵施設があり、ここには毎日1500台ほどのダンプが出入りしている状況です。今年こそ、コロナが終息し皆様と再会できるのを楽しみにしています。

加藤 彦枝（昭56農工）

令和3年度も新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、富山県支部の総会・懇親会を開催することが叶いませんでした。このため支部活動報告に代えて、富山県の農業農村をめぐるトピックとして、富山市、滑川市及び上市町にまたがる約600haを対象に、全国で初めてとなる国営農地再編整備事業（次世代農業促進型）「水橋地区」が、令和3年度に新規事業着手されたことを報告させていただきます。

「水橋地区」は、ほ場の大区画化や排水改良



ロボットトラクタを使用した水橋地区再編整備事業（次世代農業促進型）「水橋地区」

等を実施することにより、①担い手への農地の集積・集約化、②自動走行農機やICT水管理システム等のスマート農業技術の導入、③野菜等の高収益作物の生産拡大等を図り、営農者の方々の所得向上をはじめとした地域農業の発展につなげることを目的としています。

特に、スマート農業については、ロボット技術や情報通信技術を活用して、作業の省力化・精密化等を実現していく新たな農業を目指しています。その導入に際しては、単にハード整備を実施するのではなく、実際の営農者が求めるもの（ニーズ）を的確に把握し、整備に反映させていく必要があります。

今後、国、自治体、JAなど関係各所に多数在籍する新大農学部卒業生のネットワークをフルに活用して、「水橋地区」が全国に先駆けた水田農業のモデル地区となるよう努めてまいります。

上島 克幸（平4農工）

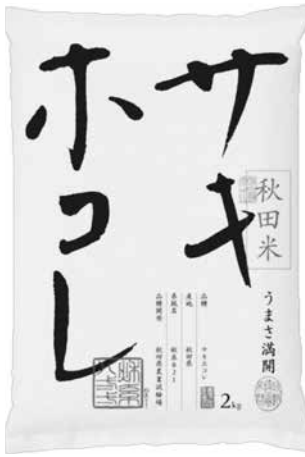
◆秋田県支部

コロナ禍のため、令和3年の当支部総会と忘年会は開催を見送りました。2年連続です。そこで、支部活動の停滞を危惧した小島会長（昭52卒）の発案により、「会報の発行」で会員の親睦をはかることにしました。全会員に原稿を依頼したところ、約3割の22名から原稿をいただきました。

その中で、2千5百字超えの労作を送っていただいたのが佐藤敦先生（昭41年卒）です。農学部が、信濃川と阿賀野川に挟まれた新潟市北部の「河渡」にあった頃の学生生活、新潟地震（昭和39年）で学部の敷地に自衛隊の駐屯地や避難所が設置されたこと。また、約50年前に秋田支部を当時の県職員数人で発足させたことなど、大変興味深い内容でした。皆さんのご協力により、会報は年末に発行することができました。

さて、令和3年産米価が大きく下がりました。あきたこまちの概算金は前年比2千円減。全国的なことではあります。稲作が主体の秋田県農業には大きな打撃です。こうした中、前回の松涛でもご紹介した秋田米新品種「サキホコレ」が、パッケージ（写真）も決まりデビューしました。私はまだ口にしていませんが、味の評判は良いようです。本格デビューは秋。米離れ、コロナ禍での外食不振など、厳しい環境下での船出ですが、各地域のブランド米に負けることなく大きく羽ばたいてほしいと願っています。

鈴木 善彦（平3農）



◆福井県支部

コロナ感染状況の間隙を縫って、今年一月下旬に総会と懇親会開催する旨の通知を会員各位にしましたが、オミクロン株感染拡大で昨年度に続きあつけない中止となり、福井支部の活動報告らしきものもできず残念です。

先般、事務局よりメールにて令和五年度に同窓会創立七十周年を迎える旨の連絡をいただきました。時の流れの早さを感じる次第です。私が在学時は、現在の五十嵐キャンパスに統合移転する時期で、五十嵐・西大畑・河渡キャンパスを往復していたのを思い出します。また、同年度末には北陸新幹線が金沢から福井県敦賀市まで延伸開業となります。福井駅から新潟駅は、高崎駅乗り換えで北陸・上越新幹線にて約四時間三十分程度で結ばれます。私が在学時には、特急白鳥にて六時間、その半分の三時間は新潟を走行していました。新潟はでかくて南北に長いことを実感させられました。帰郷する際には、新潟の「笹だんご」を買い、富山にて駅弁の「ます寿司」を買い、金沢からの車内販売では「あんころ」を買い求めたのを記憶しております。現役を退いた後、めっきり足が遠のいてしまった新潟の町、そして大学。令和五年度に開催される同窓会創立七十周年記念事業を楽しみにしております。

小竹 哲郎（昭50農工）

◆福島県支部

令和3年7月29日から、謙信公武道館（新潟県武道館）特設弓道場で、令和3年度全国高等学校弓道大会が開催されました。



そこで、福島県立橘高 女子団体・第3位、技能優秀賞を受賞しました。元福島女子高から引き続き、コーチとして通う、弓道部の入賞に、胸躍る快挙でした。

校内で行われた弓道部の壮行射会では、四年間過ごした新潟を思い起こし、「弓道場に棲む魔物に、臆することなく、新潟の暑さにも負けるな！」更に、優勝祈願のダルマに、「正射必中」と揮毫して、健闘を祈りました。その結果、立派な成果を挙げることが出来たことに、喜びが溢れる思いです。

顧問の先生の「今大会、さまざまな、仕掛けや伏線を散りばめたことで、チームの一体感を強め、結果に囚われずに、純粹に弓道を楽しむことに繋がった。」と望外の喜びを表され、そして、お土産に頂いた、新潟の「美

酒」で、心ゆくまで、大会での活躍を思い浮かべて、一人、祝いました。

令和3年9月27日、令和3年度福島市文化スポーツ功労者表彰を受賞することになり、そこで、受賞者代表で謝辞を述べる機会を戴きました。

「本日、私達が、このような榮譽ある受賞を賜うことができたのは、関係者の方々、そして、地域の皆様方に支えられ、ご理解とご協力を賜り、その職責を、大過なく務めることが出来たものと存じます。

福島市の美しい自然環境と、先人が築き上げた古えの歴史と、そして、近年における素晴らしい福島市の躍進は、私達、28万市民の誇りであります。

今後、私達は、それぞれの分野で、市勢伸展のため、そして、地域の文化スポーツ振興のため、細やかに、なお一層の精進をして参りたいと、決意を新たに致しました。

この謝辞は、取りも直さず、新潟大学農学部同窓会活動における、支部活動の御礼の言葉に致したいと思ひます。新型コロナウイルスの影響で、支部活動も思うように運べない状況です。一日も



速い、新型コロナウイルスの収束を願うばかりです。

結びに、同窓会の今後、益々のご発展をご祈念申し上げます。

高久 英昭（昭32農）

◆長野県支部

2020年度に続き、2021年度も長野県支部は、コロナ禍のなかで幹事会・総会の開催を中止しました。リモート会議も考えられますが、私も含め年齢層の高い当支部の常連にとつては、困難と言わざるを得ません。若い年代の参加者増という課題を克服するため、「災い転じて福となす」には、ITの活用が鍵となるかもしれないが現状です。事務局として、この場を借りてお詫びするとともに、宿題といたします。

本稿では、支部の活動状況の報告ではなく、コロナ禍における私の日頃の生活雑感を紹介し、報告に替えることにしました。

まずは、自己紹介です。支部の事務局長を仰せつかつて6年程になります。長野県職員を定年退職後、再任用され4年目を迎えます。現役時代より責任は軽くなりましたが、それなりに仕事は多く忙しい日々を送っております。また、コロナ禍の折、妻と旅行を楽しむこともできません。

そこで、ここ2年ほど心がけているのが、苦手な文章力を向上させる勉強

です。書店に行くと、同じ悩みを持つ者が多いのか、文章力向上に関する本が多数出版されています。まず、手当たり次第に30〜40冊を読みました。次に、「腕試し」として地元紙の投稿欄に時々応募し、何度か掲載されました。

目下の目標は、NHK・BS放送の「こころ旅」に手紙が採用されることです。俳優の火野正平さんが、投稿された「思い出の場所」「人生を変えた風景」を自転車で訪ねる番組です。暮らしたところのある新潟・岐阜・長野の風景を選んで6回応募しましたが、全て不採用でした。特に学生時代の思い出から「萬代橋の風景」を選んで書きましたが、ダメです。人に読んでもらえる文章のコツとは何か、私なりに少しずつ勉強しています。しかし、本稿を見ていただければ明らかですが、一向に進歩しません。

コロナ禍が早くあけ、自由に交流できる日を待ち望んでおります。同窓生各位が御自愛されることを願ってやみません。

増野 和彦（昭57林）

◆北海道支部

北海道同窓会会長の五十嵐です。

北海道でもコロナ禍によりいろいろな動きがとれにくく、10月中旬の土曜日に北海道内で開催している同窓会総会と懇親会は今年も中止と致しました。同窓会員同士の情報交換もままならぬ状況が続いています。

こんな状況のため、北海道支部からの情報提供は、誠に恐縮ながら、五十嵐の私事について報告致します。

69歳になり、40年間の農業改良普及の仕事で集め集まった情報の整理を始めた。

私は「はっか」栽培農家で育ちました。平成18年に私の出身地・北海道滝上町でのみ商業栽培されている「和種はっか」の最新栽培技術を作成・公表しました。

この機会に、「和種はっか」の過去の試験成績や印刷物、近年のはっかの栽培や流通情報などを、現在のはっか生産者や振興に携わる皆さんが活用できるよう、ささやか活動費を添えて滝上町役場に寄贈したところ、11月3日の文化の日に滝上町から表彰状を頂きました。

なお、この「和種はっか」の栽培技術は、2017年初版の朝倉書店・作物栽培体系7「工芸作物の栽培と利用」に要約を記述しました。

これからも、手持ちの情報の有効活用を図りながら、「断捨離」を進めたいと思っています。

今年こそ例年通り、新潟市で同窓会

常任幹事会が開催されることと、北海道同窓会の盛会をお祈りします。



五十嵐 龍夫（昭51農）

職場紹介

新潟市農業活性化研究センター

中村 晴彦（平9農生）

【開設経緯】

新潟市農業活性化研究センターは、市の更なる農業振興を図り、農業者が抱えている課題の解決や農村の活性化、6次産業化を支援する目的で平成25年6月に新潟市南区に開設しました。

旧新潟市の園芸センター試験調査部門を拡充するとともに、6次産業化への支援や農産物の付加価値を高めるための調査を行っています。



【業務内容】 ○試験研究事業

野菜・花卉・果樹を中心に生産現場における課題や国・県で開発された技術を普及するための課題、新潟市の施策を推進するための課題について、栽培技術上（品種、作型、栽培法、資材

等）で解決するための試験・調査に取り組んでいます。

また、（公社）東京生薬協会と連携協定を結び、薬用作物の国内産地の拡大に向け、種苗の確保から栽培手法の確認、実需者とのコーディネートを行っています。

当センターでは、22品目（35系統）の薬用作物を維持しており、その一部の原種苗について、生産を希望する市内の農業者へ提供しています。

また、土壌分析業務では、診断書を生産者へフィードバックすることにより、適正な施肥管理を推進してもらい、安定生産と品質向上に寄与しています。年間約300検体の土壌（水田・畑作）が持ち込まれています。

○6次産業化サポート事業

農産物の加工から販売までのマーケットに対応した農産物の付加価値向上や農商工連携などによる新事業展開を支援するため、新潟市産業振興財団やアグリパーク食品加工支援センターと連携し、食品の加工や販路拡大、農産物の機能性調査などの相談対応や関連セミナーを開催しています。



また、農産物の加工や販売による新事業展開に係る機械や施設整備、資材や調査に係る経費を支援するため、「新潟市6次産業化・農商工連携支援補助金」の制度運用もしています。

○農産物高付加価値化推進事業

農産物には、様々な栄養素や成分が含まれています。特に健康維持や増進に関する成分を消費者に明らかにしていくことは、農産物に付加価値をつけることになります。その成分の安全性に注意しながら、新潟市の柿産地（西蒲区・秋葉区）で未利用になっている柿の葉に含まれるポリフェノールのヒト関与試験（血糖・血圧）を行い、学術誌に投稿しています。

また、農産物の機能性成分（柿葉ポリフェノールや大麦ベータグルカン）を利用した加工品の製品化支援を行い、新潟市健康づくり応援食品の申請支援や市内の農業協同組合の協力



のもと越後姫のアスコルビン酸を分析し、イチゴでは初めて栄養機能食品として、食品パッケージに表示を行いました。

【当センターの新潟大学出身者】

当センターの職員16名のうち、6名が新潟大学農学部（自然科学研究科修了含む）の卒業生です。開設以来、新潟大学を含む県内大学と共同研究を実施し、新潟市の農業政策に関わる課題解決に取り組んでいます。

最後に、当センターの広報媒体を紹介いたします。

当センターの試験調査詳細やセミナー等の案内は、新潟市HP：http://www.city.niigata.lg.jp/business/shoku_hana/shisetsuannai/nougyokasseika/index.htmlに掲載されています。

また、試験概要はYouTube、普段の様子は、InstagramやTwitterで更新しています。二次元コードから登録してください！よろしくお願します。

二次元コード

YouTube



Instagram



Twitter



同窓生からのたより

我が母校

新潟大学農学部

海 津 整 也 (昭60農)

語った多くの時間があつたからこそです。感謝に堪えません。

私は幸いにも、在学時代に学んだ花卉園芸学を現在の仕事に生かすことができています。生徒と共に花を育て、野菜を育て、一緒に汗を流しています。60歳を目前にして、生徒は孫のように可愛く、趣味は生徒と会話すること。挨拶を交わすことです。(冗談でなく、本気でそう思っています。) また、これまで関わった多くの卒業生たちが進路先として

私が大学を卒業したのは昭和60年3月。当時の農学部農学科の園芸学教室で4年間学び、その後は新潟県内の高校教員として採用され、現在まで教科「農業」を担当させていただいています。小学校、中学校、高校、大学と進む中で、やはり大学時代の思い出、友人は最高の宝物であり、何より印象に強く残っているものです。何をしていけば良いのかわからず将来の生き方で悩んでいた自分が、人生の方向性を決めることができたのも、大学で学んだ農業、萩屋先生を初めとし、ご指導してくださった恩師の方々の教え、友人と

我が母校である新潟大学農学部を選び、合格し、進学していくことは何よりも嬉しく、この仕事のやりがいのひとつとなっています。中には新潟大学農学部に進み、そこから自分と同じ新潟県の農業高校教員として活躍している農業高校出身者もいます。うれしさと安心感、そして、「ああ、後は後輩に任せて自分は引退な

んだな。」というさみしさも感じる今日この頃です。

同窓生のみなさん、在校生のみなさん。新潟大学、そして新潟大学農学部は私の人生において大切な大切な4年間でした。それはみなさんにとつても同じであると思います。ぜひ母校を誇りとし、そして、人生の糧としてそれぞれの舞台で自分らしく元気にやっていきましょう。

今回は、平成8年3月卒 笹川泰子さんです。

コロナ禍で

変わった日常

佐 藤 郁 (平27農工)

① 近況

新潟大学農学部卒業後、東北大学大学院に進学し、開発コンサルタン卜業界に就職し早5年が過ぎました。入社1年目では、途上国の開発プロジェクトに伴う自然や先住民族等への影響を評価し、緩和策等を検

討する環境社会配慮業務を担当しました。初めての出張となった2ヶ月間のミャンマー出張では、慣れない生活環境に悪戦苦闘しながらも、現地スタッフと業務に邁進する充実感を味わいました。入社2年目以降は気候変動業務を専門とし、日本と海外の自治体の連携強化を促進させ、脱炭素都市の実現を目指す案件に従事してきました。以前は毎月のように海外出張をしていましたが、コロナ禍ではオンライン会議が主流となり、出張回数が減りました。現地関係者と画面上で顔を合わすことができても、直接協議をすることで交渉できていたことができない今、業務を円滑に進めることの難しさを痛感しています。

② 趣味または熱中していること

昨年末に引越しをし、学生時代から使っていた家具を新しいものに買い換えました。コロナ禍によるリモートワークの推進から、自宅にいる時間が長くなったこともあり、家での時間を充実できるよう、新しい

家具はこだわ
りを持って探
しました。ま
た、家具探し
を通して、こ
れまで訪れた
ことのない町
に行くことも
楽しみの一つ
にもなりまし
た。



③ 同窓生・在校生に対するメッ セージ

在校生の皆さんは、コロナ禍で
様々な活動が制限されているかと思
いますが、貴重な4年間の大学生活
を充実したものにできるよう、工夫
してみてください。コロナ禍だから
こそできることも沢山あると思いま
す。皆さんのご活躍をお祈りしてお
ります。

④ 次回の筆耕者の紹介

同じ学科、同じ研究室を卒業した、
同級生の高野陽平さんをお願いしま

した。現在は新潟の建設コンサル会
社で活躍されています。

滋賀県より

西 井 洋 平 (平13生環)

平成15年3月に6年間の新潟での
生活に別れを告げ、滋賀県林業職員
として採用され、早くも19年が経ち
ます。大学と大学院では砂防・運材
工学研究室で山地河川の瀬淵構造
(Step-Pool)の研究をしていました。
佐渡や下越の山に胴長をはいて、権

田先生や研究室の先輩後輩と調査に
行ったことも良い思い出です。

入庁後は出先の事務所で治山林道
の業務を担当し、7年前からは県庁
勤務となり、忙しい日々を過ごして
います。昨年度までの3年間は「琵琶
湖保全再生課」とい
う部署で、琵琶湖の水
草やヨシの対策や保
全、活用などの仕事を
していました。

滋賀県庁には新大農
学部出身の林業職と農
業土木職からなる「近
江越路会」があります。
例年、飲み会や退職者
の送別会を開いていま
すが、昨年度はコロナ
禍でもあり、新大の生
協から農学部のお酒や
大学のグッズを取り寄
せ記念品として渡しま
した。

私の妻は農学部の同
級生で農業生産科学科
卒業の旧姓松本です。



近江越路会での退職記念品の贈呈

大学2年生の冬に脳の病気になり入
院、一命はとりとめたものの、失語
症などの高次脳機能障害が残り、約
1年間休学してリハビリをしていま
した。リハビリの先生の励ましや農
学部の先生、周りのサポートもあり

日本酒の未来

湯 浅 俊 作（平23応生）

1年遅れて何とか卒業することができました。その当時は私たち二人にとって大変つらい時期でしたが、その分、新潟に対する思い入れも深いものとなりました。

滋賀県に来て、家族も増え、6年前から市民農園を借りて、野菜を作っています。農学部で学んだ作物や土壌に関することを思い出しながら、家族で楽しんでいます。作付け計画や日々の手入れは妻がやり、私は耕すなどの力仕事です。市民農園の縁で食べられる花「エディブルフラワー」を栽培している人から声をかけられ、妻はそこでパートとして働いています。

大学卒業後、日本酒造りの世界に飛び込みました。
静岡県の酒蔵で5年間修業し、現在は神奈川県小田原市に新しい酒蔵を建設し、そこで製造責任者（杜氏）として日本酒造りをしています。

発酵の世界は大変面白いです。大学時代、毎日していたような実験室での微生物の培養とは全く違いました。

そんなこんなで、夫婦そろって新大農学部で学んだことが仕事になっています。
培地成分である原料米は年や産地によって違う、気温や湿度も日によって違う、製造工程も複雑。

さて、今回は1つ上の先輩、堀泰宏さんをお願いしました。研究室でずっと同じ研究をし、社会人になってからも堀さんが出場するアメフトの試合の応援に行ったりして、アメフト観戦が私の趣味となりました。

また、得られるデータにも限りがあるため、香りや味、見た目や手触りなどの感覚的なところも駆使して目指す酒質への最適解を導き出しました。



小しています。

一方、海外需要は伸びており、輸出額は毎年増加傾向。ただ、目標額よりも低く、なかなか取り組めていない酒蔵が多いのが実状です。

高齢化、人材不足、法規制、生産性の悪さ、酒離れ、流通構造、コロナetc：原因はひとつに定まらず、多様で複合的です。

9割が中小零細企業の業界。各メーカーは少ないリソースで試行錯誤しながら需要拡大に取り組んでいます。

す。
す。

まだまだ科学では解明されていないことの方が多い日本酒造りの世界。仮説検証を繰り返し、理論を探求していくプロセスは研究と同じな気がします。

そんな中、新潟大学では「日本酒学」という広域学問分野が誕生しました。

総合大学の強みを生かした大変素晴らしい取り組みです。

日本酒業界の現状を少しお話しします。国内需要は年々減少、酒蔵も減少しており、国内市場はどんどん縮

母校が日本酒の世界的な学問拠点になっていくことは大変うれしく、誇りに思います。

多様な側面から日本酒を学び研究することで、現状の課題を打破できる人材が出てくることを期待しております。

一緒に日本酒の未来をつくっていったらと思います。

最後に、私が造っている日本酒について。

HINEMOS（ヒネモス）というブランドの日本酒を造っています。ローマ字表記なので一見英語かな？と思いますが、実は日本語で「全ての時間」という意味。

世界中の人に共通して平等に存在する「時間」という概念。自分の造る日本酒がそんな存在であることを目指しています。

学生時代の友人が 今も財産です

栗原 春 圭（平20生環）

① 近況

私は2008年に農学部生産環境

科学科を卒業し、新潟市内の廃棄物処理・再資源化を行う会社で営業職として仕事をしています。お客様に對して、どういう方法が一番経済的で環境負荷が少なく、コンプライアンス上問題がないかなど提案しています。社内では、新卒採用活動、新入社員研修なども担当してきました。新潟大学の合同説明会にも何度か参加しています。2019年に男児を出産、今年の4月に復帰し、忙しくも充実した毎日を過ごしています。

② 熱中していること

育児・仕事以外をする時間的余裕がないので、熱中といえばそれです。育児は、新鮮な発見の連続です。2歳の子供の目で物事を見ると、動物も自然も機械も、なんでも宝物を発見したような気持ちになれます。次は何に興味をもって、どこに連れて行ってくれるのか楽しみです。

③ 感動したこと

育児復帰してから、仕事ってこんなに楽しかったのかと気づけた事です。忙しくて息もつけないような日

はありますが、自分の思うように行動を計画して、それが成果に結びつくという流れが、自己実現できているという満足感になっているのかもしれない。

④ 同窓生・在校生の皆さんへ

私にとって、大学で共に学んだ

友人はとても大切な存在です。卒業して10年以上過ぎ、生活環境も様々変わりました。しかし友人と会う時は、20歳前後の自分に戻ったような気分になり、特別な癒しや刺激をもたらえます。しばらく会えない日が続いて寂しく思っていました。今年その中の友人の結婚式にお招き頂き、改めて顔を見て触れる機会のありがたさを感じました。在校生の皆さん、まだ行動制限あると思いますが、健康に気を付けて楽しい大学

生活を過ごしてください。

⑤ 次回の執筆者の紹介

生産環境科学科の同期で、いつも隣の席で授業を受けてくれた角田貴恵さんです。よろしく願います。



トピックス

山古志に暮らして

新潟大学農学部

坂田 寧代^{やす}

新潟大学の「女性研究者開花プラン」支援事業の助成を受け、3

月までの予定で1年間、山古志木籠（こごも）集落に一軒家をお借りして研修・研究活動を行っている（新潟日報10/15朝刊20面）。2004年新潟県中越地震で被災した地域の



愛牛「潮（うしお）」の引き回し
（2021年10月10日、寺澤達夫氏撮影）

復旧・復興・地域づくりについて、通いながら調査してきたが、「調査」ではなく地元の方と一緒に「活動」することで見えてくるものがあると考えたからである。一昨年に伝統行事「牛の角突き」の闘牛のオーナーになったことも後押しした。

山古志では農耕、家畜、運搬用として牛が家族のような存在であり、神事や娯楽として角突きが執り行われてきた。時代の流れとともにそれらの役割が薄れ、観光の色合いを強めた角突きが残っていたところ、中越地震が発生した。それまでのように各戸での飼育が難しくなったため牛舎が建設され共同飼育されることになった。山古志の取組に出場する約60頭の牛はすべてこの牛舎で飼育され、最近では首都圏や関西圏など他地域のオーナーもいる。

山古志に来てからはこの牛舎の飼



ライトアップの準備作業の合間に
（2021年7月31日、関 正史氏撮影）

育補助作業をすることを基本とし、闘牛大会や地域の行事に参加するほか、交流施設「郷見庵（さとみあん）」の店番をしながら来訪者と話をする毎日である。コロナ禍にあつて角突きの来場者数の激減に対処するため、山古志闘牛会は夏の1週間、山古志闘牛場のライトアップを昨年初めて行った（新潟日報8/5朝刊20面）。2,000本ほどのLEDライト「ペットボトル」を炎天下に設置する作業に研究室の学生とともに

参加したところ、山古志闘牛会やボランティアの方々率先した動きに学生たちは大いに刺激を受けた様子だった。また、授業は基本的に同僚や非常勤講師に交代頂いているが、地域の計画案を作成する演習は郷見庵などで木籠集落の方にお話を伺う形で担当した。そうしたところ、受講生の一人が「お世話になったお返しをしたい」という気持ちから所属する落語研究部の仲間とともに10月23日に郷見庵で行われた復興感謝祭で落語を披露してくれ、大いに会場を沸かせてくれた（新潟日報10/24朝刊17面）。

研究面だけでなく教育面でも地域に根差して活動することの重要性を折に触れて感じている。この1年間で終わらせることなく、これからもお付き合いを続けていきたいと思いい、あれこれと考えを巡らせているところである。最後になりましたが、日頃お世話になっている山古志の方々、授業等を交代頂いた同僚の方々、関係各位に心より感謝申し上げます。

農学部国際シンポジウム

ISFAE2021 NIIGATA開催

農学部国際交流委員会委員長

原田直樹

農学部同窓会の皆様には、日頃より農学部の国際交流活動にご理解を賜り、誠にありがとうございます。

農学部では2005年以降、交流協定締結校とのネットワークの構築・維持、研究者・学生の交流、本学学生への国際学会での発表機会提供等を目的とし

て、2～3年に1度の頻度で国際シンポジウムを開催しております。2021年度はその開催年度にあたり、昨年度来準備をして参りました。開催地については、直近3回が海外開催であったことと、何よりも新型コロナウイルス禍の状況を鑑みて、早々に本学とすること



に決定いたしました。4月には運営委員会を組織し、大会名称を7th International Symposium on Strategies for Sustainability in Food Production, Agriculture and the Environment 2021 (略称 ISFAE 2021 NIIGATA) 開催日を2021年12月2～3日と

リット(来場+オンライン参加)開催を模索しましたが、新型コロナウイルス禍の状況は好転せず、最終的に全面オンライン方式となりました。その中でどれだけ参加者が集まるか不安もありましたが、ふたを開けてみると11か国から338名の参加登録があり、これまでで

しました。またKAABには共催、日本酒学センターには後援いただきました。

当初はハイブ

カラ大学(トルコ)のジャン先生、中国農業大学の牛先生、本学の三ツ井先生から基調講演をいただきました。一般研究発表では口頭発表81題、Eポスター発表163題の申し込みがあり、学生も多数参加して、オンライン開催でありながらも活発な議論が交わされました。ミニシンポジウム「New Frontiers of Food Crops and Biomass Production Technologies」も開催されました。閉会式では末吉理事に総括いただき、小椋自然科学研究科長の宣言をもって閉会となりました。

会期中は通信トラブル等が多々ありましたが、臨機応変にご対応いただき、無事に全プログラムを終えることができました。本シンポジウムに関わったすべての皆様、この場を借りて御礼申し上げます。

来年度こそは国際交流活動の正常化を期待しております。皆様の変わらぬご支援をどうぞよろしくお願い致します。

学部だより

新任教員紹介

フィールド科学人材育成プログラム

助教 永野 博彦



2021年4月に助教として着任し、陸域環境動態研究室を

立ち上げました。土壌培養実験や環境DNA、屋外フィールド観測、人工衛星データなど様々な手法・データを活用し、各種陸域生態系の温室効果ガス動態や物質循環を解明する研究に取り組んでいます。陸域生態系で営まれる温室効果ガス動態の変化は、地球規模の温室効果ガス収支、ひいては地球温暖化の進行を左右する可能性が高い、と考えられています。

私は、博士課程の学生として2012年まで千葉大学・土壌学研

究室に所属し、アラスカ大学や日本

原子力研究開発機構、名古屋大学で

ポストドク研究員を勤めました。その

過程で、土壌学だけでなく、微気象

学的手法や人工衛星データを使った

生態系規模での温室効果ガス動態研

究、同位体分析を使った土壌有機物

安定化プロセスの研究、および環境

DNA解析を利用した環境土壌微生物

物研究などに取り組みました。今後

も、これらのスキルを多面的に融合

すること、陸域生態系で営まれる

多様な物質動態と環境の相互作用の

解明に邁進し、地球環境課題解決に

様々な形で資する人材の輩出に努め

たいと思います。

生物資源科学プログラム

助教 氷見 理



令和3年4月に着任いたしました氷見理（ひみ まこと）と

申します。農学部同窓会の皆様にご

挨拶申し上げます。

出身は群馬県で、平成31年3月に

東京農工大学大学院連合農学研究科

で学位を取得しました。その後、北

海道立総合研究機構酪農試験場（中

標津町）にて酪農の経営研究に従事

し、令和3年4月から現職です。

専門は農業経済学で、特に農業構

造といつて土地所有と利用の関係、

すなわち農業生産の担い手のあり方

を探究研究をしています。その中で

農業が他産業との間で労働力を巡る

競争を行なっているという認識か

ら、規定要因として農家を取り巻く

労働市場に着目しています。持続可

能な農業生産の担い手のあり方を明

らかにすることで、農業・農村の維

持・発展に貢献したいと考えていま

す。

農商工がバランスよく発展してい

るといふ新潟県の特徴を生かし、現

場に根ざした教育研究を進めていく

所存です。どうぞよろしくお願い申

し上げます。

「新潟大学カード」入会のご案内

●新潟大学全学同窓会では、新潟大学の発展を支援し、同窓会員へのサービスと連携を深める目的で、三菱UFJニコスと連携して「新潟大学カード」を発行しています。

この機に是非ともご入会を！

入会費
年会費
無料

※詳しくはホームページ
<http://www.niigata-u.ac.jp/dousokai/card/> を
ご覧ください。



コロナ禍、嵐丘庭の草刈りを 2回実施しました

今年度もコロナ禍の中、嵐丘庭の草刈り作業等を2回実施することが出来ました。

渡辺仁会長、中田誠学部長の号令の下新潟県支部会のご協力をいただき1回目は6月26日(土)、2回目は10月16日(土)でした。

2回目には木道に沿って防草シートの敷設を行いました。この日はC棟において入試相談会が実施(リモート)されたため、刈り払い機の使用は行わず、手作業での草刈りとなりましたが、皆様のご協力により予定より早く終了することができました。

作業終了後の昼食を兼ねた情報交換会は、コロナ禍のため断念し、テイクアウト形式でお弁当やお茶などを配布しました。



農学部 動向

学会賞等受賞

○角井宏行(教員)

第140回講演会日本育種学会優秀発表賞

第1回超分野植物科学研究会最優秀ポスター賞

○笠原菜月(大学院博士前期1年)
令和3年度(公社)砂防学会研究発表会「オンライン大会」ポスター発表奨励賞

○池田健人(2021年3月修了)
新潟大学大学院自然科学研究科令和2年度日本地域学会優秀発表賞

○石田知輝(大学院博士前期1年)
第35回キチン・キトサンシンポジウム 日本キチン・キトサン学会ポスター賞

○阿部 透(大学院博士後期2年)
第31回イソプレノイド研究会例会奨励賞
第61回新潟生化学懇話会優秀プレゼンテーション賞

第5回抗酸菌研究会奨励賞

○藤井明日香(大学院博士前期2年)
第61回新潟生化学懇話会優秀プレゼンテーション賞

ゼンテーション賞

○亀谷太一(大学院博士前期2年)

第31回インプレノイド研究会例会
奨励賞

○渡邊匠海(農学部4年)

「SUSTAINABLE FOREST
ACTION 2021」2位

○ラシット アシルオグル(教員)

日本土壤肥料学会2021年度大
会若手口頭発表優秀賞

○鈴木一輝(教員)

日本土壤肥料学会2021年度大
会若手口頭発表優秀賞

○三浦雅矢(大学院博士前期2年)

ISFAE 2021 NIIGATA
Excellent Poster Presentation
Award

○齋藤光佑(大学院博士前期1年)

令和3年度日本地域学会優秀発表
賞

○李 靖儀(大学院博士前期2年)

令和3年度日本地域学会優秀発表
賞

○侯 博偉(大学院博士前期2年)

令和3年度日本地域学会優秀発表
賞

○金澤伸矢(大学院博士前期2年)

日本応用糖質科学会2021年度
大会(第70回)ポスター賞

日本作物学会第252回講演会優
秀発表賞

○古川音子(大学院博士前期2年)

ISFAE 2021 NIIGATA
Excellent Poster Presentation
Award

○黒鳥一輝(大学院博士前期1年)

ISFAE 2021 NIIGATA
Excellent Poster Presentation
Award

会 員 計 報

青柳 和雄(昭23・3農専農)

田村 卯八(昭23・3農専農化)

高野 芳夫(昭24・3農専農)

渡辺 賢道(昭24・3農専農化)

野上 弘(昭25・3農専農)

岩佐 二郎(昭30・3農学)

加藤 義純(昭30・3総農)

赤沢 邦欣(昭32・3農学)

五十嵐益夫(昭32・3総農)

丸山 実(昭32・3総農)

佐藤 克廣(昭33・3林学)

富所 侃(昭33・3総農)

内山 敏(昭34・3農学)

佐藤 義久(昭34・3総農)

金枝 亮(昭36・3林学)

東理 修作(昭37・3農学)

竹島 巖(昭38・3農学)

藤田 進(昭39・3農学)

進藤 隆(昭41・3農学)

田島 達哉(昭41・3農芸化)

増田 典男(昭47・3農工)

中津留敏彦(昭52・3農工)

五十嵐秀一(昭53・3農芸化)

遠藤 忠一(昭53・3農学)

三富 重信(昭54・3農学)

中川 秀幸(昭55・3農芸化)

蘆田 一郎(昭56・3畜産)

福田 寛之(昭59・3農業生産)

大淵千紗子(昭61・3応用生物)

後藤 友花(昭62・3農業生産)

山田 豊一(不明 元教員)

(卒年次順・五十音順)

同窓会事務局からの お願い

住所《変更届》について

同窓会名簿の整備は、同窓会事業
の根幹であり、運営の基となる貴重
な資料です。

住所を変更された場合は、左記に
より農学部同窓会事務局までお知らせ
ください。

住所変更の連絡方法

① 官製ハガキまたはFAX

025-263-3107

② E-mail:

dousou@agr.niigata-u.ac.jp

編 集 後 記

平成二五年から長きにわたり同窓
会事務局をご担当された家後輝雄様
が、今年度途中で退職されました。
「松涛」の編集においても、原稿の
依頼から発行まで、大変ご尽力いた
だきました。まさに「縁の下」の力持
ちであり、この場をお借りしまし
て、心よりお礼申し上げます。

新型コロナウイルスは変異を重
ね、今、オミクロン株が猛威を振るっ
ています。編集委員会も第2回は開
催を見送りました。そのため、この
編集後記に掲載される委員の写真が
今回はありません。楽しみにしてお
られた皆様(いないかもしれませんが)、
大変申し訳ありませんでした。
ある医師の話ですが、歴史的に見て
も新型コロナウイルスの流行は3年
で治まるだろう、とのこと。人間も
免疫を獲得していき、やがてウイル
スとの共存関係が構築されることが
あるようです。3年目となる今年、
本当に治まってくれることを願って
います。

何かと窮屈な生活が続いておりま
すが、農学部仲間の活躍や、懐かし
い友人の様子を思い浮かべ、「松涛」
が皆様の活力に少しでも役立つこと
ができれば幸いです。

お忙しい中、原稿をお寄せいただ
いた皆様、本当にありがとうございます。

特集 進藤前会長を偲んで

令和3年4月、新潟大学農学部同窓会前会長 進藤 進様が逝去されました。進藤前会長は、平成20年に同窓会長に就任され、平成28年まで2期8年に渡り同窓会活動にご尽力いただきました。

進藤前会長は、昭和41年3月に新潟大学農学部農学科をご卒業され、以後高等学校教員として農業教育にご尽力されました。管理職になられてからは、学校の施設設備を充実させるための予算措置や、低迷していた農業高校の志願者数を増やし、魅力ある学校作りに精力的に取り組んでおられました。定年退職後は平成15年から25年まで新潟大学で非常勤講師として「農業科教育法」の授業を担当されておりました。この科目は農業の教員免許取得に必須の科目ですが、経験豊かで親身な先生の指導により、多くの皆さんが教員免許を取得することができました。

ここに生前の進藤前会長を偲び、ご功績や思い出などを掲載させていただいて、ご冥福をお祈りいたします。



③教室のエアコン

今となっては当たり前の教室のエアコン。当時からの必要性を訴え、平成15年に退職されるまで、整備に向けて県やPTAと検討し、設置にこぎ着けた。



①合宿所

校地内に合宿所を整備した。部活動だけでなく、進学や資格取得のための学習でも利用されている。県内でも校地内に合宿所がある高校は少ない。



④甲子園出場記念碑

校長在職期間中、春1回、夏2回の甲子園出場を果たしている。

新発田農業高等学校 在職時代に取り組まれた 主なご功績



②車両置き場の 電動シャッター

シャッターの上げ下げを電動化し、職員の負担を軽減した。

進藤隆先生との思い出

菅 谷 耕 司 (昭62農)

私が教員として最初に勤務した学校に、平成3年に進藤先生が教頭先生として赴任されました。機会があつて、県内の農業高校生のアメリカ農業留学(シヨートステイ)の引率をすることになりました。その際に、進藤先生からはアメリカの文化・習慣、アメリカ農業について事細かく教えを請い、さらにメディア対応など幅広くサポートをしていただきました。進藤先生の機転と行動力の早さ、さらに教頭になると何もかも機敏で、そして広範囲な人脈を使い、物事を対処されるのだと感心したことを思い出します。しかし、教員生活が続けるにつれ、これは教頭なら誰でもできるわけでは無い、進藤先生だからできることなのだと実感しました。ワープロからコンピュータに変わろうとしていた時でもありました。ご専門が農業機械だからなのか、コンピュータ教育にも熱心でした。しかしそのような中でも東芝のルポを愛用し感熱紙で印刷をしているような、そんな一面もあったことを思い出します。

その後、縁があつて平成13年に新発田農業高校に転動しました。そこでは進藤先生は校長として力を発揮していました。90周年の行事や学科改編などの大きな仕事が続きました。校長先生が自ら率先して動き、アイデアを出し具現化していらつたので、90周年行事では、当時の同窓会長は大変お忙しい方だったため無駄な時間の使い方が許され

ず、進藤校長先生が中心となって進めていたように感じています。実行委員会の帰りの車中では、同窓会長とのやりとりを確認したり、行事を成功させるためにいかに人に動いてもらうか、などを考えておられ、校長としてのリーダーシップの強さを感じました。

90周年の翌年には学科改編を控え、1年を掛けて準備をしました。ここでも全国の農業高校の状況や、下越・新発田地域の農業など多方面の資料を調べ、校長として方向性を強く示し、実現するために何惜しむことなく行動される方でした。あの当時、進藤校長は何でも自分で準備をして教員に示し、ご年配にも関わらず精力的に動かれる校長であり、初任校の頃から10年経っても何も変わらず、エネルギーシユな先生なのだと、羨望の眼差しで行けたと同時に、このエネルギーについて行けるのだろうか、と思ったことも事実です。

校長退職後も、新潟大学農学部同窓会長や農業科教育法の講師としてご尽力されておられました。以前、農学部同窓会の席でお酒を一緒に過ごしていたのですが、おいくつになっても夢を持ち、エネルギーのある方だな、と感じ、自分も進藤校長先生の年齢となった時、あのエネルギーと行動力があるのだろうかと思つてしまいました。農業に対する、そして教育に対する思いが大変強く、そして行動力のある校長先生であつたお姿は私の心の中にいつまでも強く残って消えることはありません。心から、先生のご冥福をお祈りいたします。今まで本当にありがとうございました。

進藤隆先生を偲んで

井 澤 美 樹 (平8応生)

今から二十数年前、新採用で県立新発田農業高校に勤務することになりました。そこで、5年間進藤校長先生には大変お世話になりました。私は普通高校出身で、大学は農学部でしたが実験を中心に学ぶ学科に所属していたため、農業科の教員として採用されましたが、どのように農業について授業をすればよいのか全く分からず、不安しかありませんでした。そんな時に、進藤校長先生から、「農業教員は現場の管理ができて、きちんと生徒にものを教えることができるようにならなければならない。そのためには毎日現場に顔を出すことが大切である。」という言葉を初めに教えて頂きました。食品科学科に配属されたので農場の現場はありましたが、農産物の加工やお菓子作りなどは全く縁がなかったため、先輩方の授業を見学させて頂いたり、先輩方から教わりながら練習をしたり、と自分なりに勉強をしていました。そんな中、



進藤校長先生の奥様からも洋なしのお菓子やキムチ作りを習うことができました。奥様が作るものはどれも美味しくて、「進藤校長先生は毎日美味しいものを食べているんだな。」とうらやましく思つたことも覚えて

います。美味しいものをたくさん知っていた進藤校長先生から、肉加工を学びに1ヶ月間、佐渡の美味しい肉加工店への研修を勧められ、勉強に行かせて頂きました。そこでは、大きな豚のブロック肉の各部位の処理や、ソーセージ・ハムの加工についてなど、様々なことを実習させてもらい、授業をしているだけでは学べないことを数多く学ぶことができました。大変貴重な研修となりました。参加させて頂いたことに感謝しています。研修から戻ってきて、「課題研究」という授業で生徒たちとソーセージ作りに取り組みしましたが、施設・設備の点から肉加工の営業許可が保健所から降りず、断念しなければならなかったことは、今思っても残念な気持ちでいっぱいです。佐渡の研修では下宿先のお世話もして頂きました。肉加工という今まで触れたことのない分野での研修に大きな不安を抱えて参加しましたが、研修先や下宿先の方々に大変親切にして頂き本当に感謝しています。1ヶ月学んだ肉加工と、皆さんの親切をすべて身につけた結果、5kg近く太ってしまいました。進藤校長先生から教わったことは教員の基本だと思つています。今までも、これからも教える大切に自分の仕事にあたっていたいと思います。進藤校長先生、ご指導本当にありがとうございました。